

森里海に学ぶ

大正大と三陸の連帯

- 4 -



C・W・ニコルさん 1940年
英国南ウエルズ生まれ。カナダや
エチオピアなど世界各地で環境保
護活動を行い、80年から長野在住。
荒れた里山を購入し、「アフアンの
森」と名づけて、再生活動をしてい
る。

●「欠乏症」深刻

自然と触れ合う機会が少ない子どもには、成長過程で思わぬ障害が現れることがある。「自然欠乏症」という言葉

ら迫ってくるものに気づかない。問題を放置すると、判断

本人の病状は深刻だ。

●五感発達促す

原因は何か？ 文字通り、自然の欠乏だ。子どもは自分を取り巻く環境を手探りしな

限や永遠についてじっくり考える環境を与える」

アフアンの森財団が東日本

●防潮壁に限界

現代社会に浸透した「テクノロジー対自然」という対立の図式。中には、理論ばかりで自然の真の姿を知らず、愚かな判断を下す専門家もいる。巨大な防潮壁で災害を防げると考えることがいい例だ。人を海から遠ざけ、沿岸環境を破壊して、漁業・観光資源をムダにする。たとえ巨費を投じて頑丈な壁を造ったところで、結局は、大地震や津波という自然の脅威をねじ伏せることなどできはしない。

人類の、日本の未来のために、自然にあらがうのではなく、理解し、共生する知恵を学ぶ―それは子どもうち始めるに限る。

◇ 訳/森 洋子

自然に触れる教育必要

作家 C・W・ニコル

る。じつとしていられない、集中力がない、友だちとうまく遊べない、がまんができませんしやくを起す。こうした症状を総称して「自然欠乏症(症候群)」と呼ぶ。

の生みの親は米国のノンフィクション作家リチャード・ループで、著書「Last Child in the Woods(邦題・あなたの子どもには自然が足りない)」は欧米でベストセラーになった。日本では話題にもならな

大正大(東京)と河北新報社の連携事業として、同大が宮城県南三陸町などで行う出前講座、フィールド学習の内容を担当の講師に月1回報告してもらいます。